

小倉山通信

自立心と共感、創造力に満ちた角館中学校

平成31年3月13日(水) No.42

平成30年度 第34期生
卒業証書授与式を行いました



3月9日(土)、本校第34期生の卒業証書授与式を行いました。当日は天候にも恵まれ、蒼宙学年にふさわしく晴れ上がった青空と暖かい太陽の陽射しが98名の卒業生を祝福してくれました。

式は、卒業証書の授与、式辞、仙北市議会議長様の祝辞に続いて「希望の門出」でクライマックスを迎えました。先輩への感謝の思いと伝統を受けつぐ決意を綴ったS.さんの送辞があり、これに続く「すすかけの道」の全校合唱では、涙をこらえきれない卒業生の姿がありました。T.さんの答辞も熱い思いのこもった素晴らしいものでした。そして、3年生の「旅立ちの日に」の合唱、校歌合唱と続き、厳粛な雰囲気の中に、感動のこもった式を閉じました。

それに続いた門送りでは、卒業生へのエールと、これに答える形で先輩から後輩への激励のエールが贈られました。

式で見せた3年生の姿かたち、立ち居振る舞いには成長の証と同時に爽やかさがあり、後輩たちに対する最後の励ましと導きになりました。感謝の気持ちでそれを送り出す後輩たちの姿勢も立派なものでした。

以下に、式辞、送辞、答辞を紹介いたします。

式 辞

すすかけの道を覆っていた雪も今は解け、朝の光の中に新しい季節が兆す頃となりました。待ちわびた春の訪れを感じる今日の佳き日に、仙北市議会議長様はじめ、多くのご来賓と、保護者の皆様のご隣席を賜り、ここに、平成30年度仙北市立角館中学校第34期生卒業証書授与式を行いますことを、心より御礼申し上げます。

さて、ただ今卒業証書を授与いたしました蒼宙学年の皆さん、ご卒業おめ

でとうございます。今、卒業証書を手にした皆さんの心の中には、3年間の様々な瞬間が次々とよみがえっているのではないのでしょうか。

ここで過ごした日々の中には、授業中に感じた、学び合う喜びや発見、部活動で得た達成感、「すすかけ祭」での感動といった、心躍る楽しいことがたくさんあっただろうと思います。時には、人と人の絆を求めて得られず感じた苦しさ、あるいは、目標を見失って悩んだことや、心が萎えそうになって流れ出した涙もあったと思います。しかしみなさんは、98人の仲間と共にそれを乗り越えてきました。

私がみなさんと過ごしたこの2年を振り返ってみると、蒼宙学年は、いつも前向きに進む学年であり、ユーモアと笑いが溢れる学年でもありました。

それを思い出させてくれる光景があります。桜の花咲く4月の校内陸上記録会。声を掛け合い、肩を組んでできた円陣には、新しいクラスへの期待が満ちあふれ、明るい笑顔が輝いていました。学級対抗16人リレーやチームロープジャンプで、声を漕らして応援し合った場面は、今の学級の物語のスタートでした。

7月には雨の中、「田沢湖鳴き砂復活プロジェクト」の一環として、白浜クリーンアップ活動に参加しました。膨大な枯れ木や流木、木の葉を拾い集め、地域貢献の貴重な体験をしました。難儀な作業ではありましたが、遊覧船の中や「思い出の湯分校」では弾む会話や笑顔がありました。

そして迎えた秋の「合唱コンクール」と「すすかけ祭」。仲間とともに、合唱にかけた情熱は、最後には感激の涙になりました。3年生の学年合唱「流浪の民」は角中の誇りとなり、4つのクラスのそれぞれの個性がきらめいた瞬間でした。

すすかけ祭では、3年生が295人の力を一つにまとめ上げ、最後に披露した「大いなる秋田」の全校合唱は、来場者の心を大きく揺り動かしました。仲間と協力して作り上げたステージ発表や展示、お客様のありがとうございます、いつまでもあなたの心に残っていることでしょう。感動を分かち合うことで結ばれた仲間との絆が、皆さんの中学校生活を鮮やかに彩っています。

これらの思い出と共に、やはり忘れ

2. 優新入を間全リ女
 準県位擧瞬は、のり
 子全5のだは、年勝、しま
 で男く第らついで学優を
 躍の続子かついで学優を
 活の伝は、女輩けついで学優を
 の伝は、女輩けついで学優を
 部駅成績勝、先受湖、蒼宇準優を
 伝人成績勝、先受湖、蒼宇準優を
 駅新人成績勝、先受湖、蒼宇準優を
 新の初しり田集と、男
 郷位の初しり田集と、男
 美3男まっかの結も輝か
 の第のつが今力賞の
 のの時び年シッ入
 いの第のつが今力賞の
 な当女伝結学た年シッ入
 ら生女伝結学た年シッ入
 年勝、駅に申全タ子第4

学校対抗の競技であります。それ
 は学校の競い合分間走で汗を流し、競
 心を一つに成果は、な女入賞とい
 技で得た証明の結実に大ききな目
 全一校の成績に遠く日々努力するこ
 遥か遠く日々努力すること、この姿
 向かって走り、応援すること、この姿
 全校で走ること、この姿
 は角中への伝統として、必ずや後輩
 に受けつがれていくものと信じていま
 す。

さて、いよいよ別れの時が来ました。
 3年間、共に過ごした仲間との日々は
 今日で終わります。あたって、この後のみ
 旅立ちの日にあたいことを述べたいと
 なさん期待したいことを述べたいと
 思。

それは、「自立心と共感、創造力に
 満ちた人間であれ」ということです。
 この言葉は、今まで角館中学校が学
 校像として目指してきたものですが、
 同時に、人間生きていく上で、大切
 には、常に意識していくべきことだと
 私は考えています。

「自立心」とは、周囲の状況がどう
 であらうと、自分の意志と責任で正し
 く判断し行動しようとする心です。本
 日は、少年化が急速に進んでおり、日
 は、少年化が急速に進んでおり、日
 的として、若き年代の社会参加の時
 を早める施策が進められています。そ
 れは、選挙権年齢引き下げや成人年
 齢の引き下げに表れており、これから
 の社会では、若き世代が様々な分野で
 積極的な役割を果たすことが期待され
 ています。

言い方を換えれば、これからの社会
 は今まで以上に若い世代に自立心を求
 める時代になるということです。「私
 はこう考えます。その理由はこれこれ
 こうだからです」といえる若い世代が、
 これまで以上に必要とされるのです。
 他者に頼りきりになることなく、自
 分で人生を切り開く力、自分の頭で考
 え、正しく判断する力、常にその力を
 求めて続けてください。

次に「共感」についてです。人は「共
 感」することによって「学ぶ」のであり、他

者との「共感」を通して世界を理解し
 ていける入ると感動する豊かな心が形
 作ら
 2. 年生の修学旅行で訪れた沖縄の
 「ひめゆり平和祈念資料館」で、太
 洋戦争末期の沖縄戦の状況を学ぶ機
 会がありました。そこでは、地上戦の
 経験者証言とその映像に触れること
 ができました。あの時皆さんの真
 眼差しが忘れられませんか。戦争の
 悲しみを懸念し受けとめ、その平
 和への願いを共に実現しようとする
 意、あれこそが共感なのです。

異なる考えの様々な人たちがこの出
 いが、この後、みなさんを待っていま
 す。その考えを表面的に評価する前に、
 その考えの根底にある心で共感をも
 て受けとめる人であってください。

最後創造力についてです。
 創造力は、様々な課題に新たな解決
 策を見だし、価値を創りだしていく
 力です。変化の激しい社会の中でも、
 自立心と共感力を豊かに働かせなが
 ら、よりよい人生や社会の在り方を追
 究していかけてください。そして、試
 錯誤しながらも課題を解決し、新た
 な価値を創造していかけてくれること
 を期待しています。

時々、自分に問いかけてみてくださ
 い。
 自分が歩いている道は、自立への
 道であるのか。
 今、自分が感じていることは、共感
 と呼べるのか。
 自分のこの努力は、創造の喜びにつ
 ながるものなのか。
 その問いかけが、皆さんの歩みの道
 になるようになっていくのです。

さて、保護者の皆様、お子様のご卒
 業おめでとうございました。今日、晴れ
 の日を迎えたお子様の姿に、感慨も
 成長の著しい中学生の時期に、その
 前向きな歩みをうながす日々には、さ
 ぞやご苦労も多かったことと存じま
 す。これまで、お子様を励まし、支え、
 育ててこられた御苦労に心から敬意を
 表しますとともに、この間、本校の教
 育活動に対しまして、皆様から頂戴し
 たご支援に厚く御礼申し上げます。誠
 にありがとうございます。

終わりになりますが、卒業生一人一
 人が希望に輝く道を歩み続けること
 を、そして、その道が自立と共感と創
 造の喜びに満ちていることを心から願
 い、式辞といたします。

角館中学校 校長 田口和典

